

国語科におけるタブレット機器の活用

「話す・聞く」単元における実践

清水 義之（羽咋市立余喜小学校）

国語科「話す・聞く」の単元では、自分の発表の姿を自分でみて、自己評価することが難しい。そのため、授業においてタブレット型機器を活用した授業実践を行った。そこで、自分の発表の姿を客観的にみることができ、自己評価の視点が明らかになった。また、国語科の授業だけでなく、他教科の授業の発表においても発表の視点を意識して、相手に分かってもらおうという姿が育った。

<キーワード> 共通の評価 発表の視点 自己評価 相手意識

1 はじめに

本実践は4年国語科「話す・聞く」の単元であり、教材は「だれもが関わり合えるように」である。本単元の大きな目標は「相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができる。（話すこと・聞くことウ）」である。本時の評価規準は「相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話している。」である。

発表の様子は他人に評価してもらうことが多い。実際には自分の発表の様子がどのようになっているかを児童は理解していない。他人による評価だけでは、今後の意欲にはつながっていかない。そこで自分で自己評価することが必要であると考えた。そのためには、児童が扱いやすく撮影しすぐに見ることができることが重要であると考え、タブレット型の視聴覚機器を活用して実践を行った。

2 iPad を活用実践

2-1 導入

導入では、事前に撮影しておいた教師の発表の動画を Apple TV を使って大型テレビに映し視聴した。（写真1）



写真1 教師による音読動画の視聴

視聴した動画は悪例であり、児童はすぐにおかしいことに気付くことができ、本時の課題「どこに気をつければよりよい発表になるかな。」に入ることができた。また、どこがおかしいかやどう直せばよいかなどをつぶやく児童も多く、本時の見通しを全員がもつことができた。

2-2 学び合い

本時のねらい「相手を見たり、大事な言葉や部分を強調したりするなど話し方の工夫ができる。」を達成するためには、児童に共通の評価規準をもたせる必要があると考えた。そこで、児童2人に1台の iPad をもたせた。そこに、ロイロノートを使い、6年生の発表の様子を撮影しておいた動画を各 iPad に配信した。児童は教師の動画と6年生の動画を比べながら、発表のポイントを考え出すことができた。（写真2）また、自分達の考えの発表の場では、Apple TV を用いて動画を活用しながら発表させた。

本時での評価のポイントは以下の4点に絞った。

- ①視線に気をつける
- ②間をとる
- ③声に強弱をつける
- ④読む速さをかえる

さらに、iPad では、手元で見れることや自分の必要な動画の再生部分を取り出せることが容易に行えるため、児童は動画を何度も繰り返し視聴していた。そのため、児童は発表のポイントだけでなく、どんなときにポイントを使えばよいかを考えることができた。



写真2 児童による学び合い

2-3 終末

終末には、自分の発表原稿を用いて自らのポイントを原稿に書き入れた。(写真3) 本時での学びを生かし、4つのポイントを意識しながら個々の学びを深めていった。また、ふり返りでは、次時の目標を意識している児童もいた。

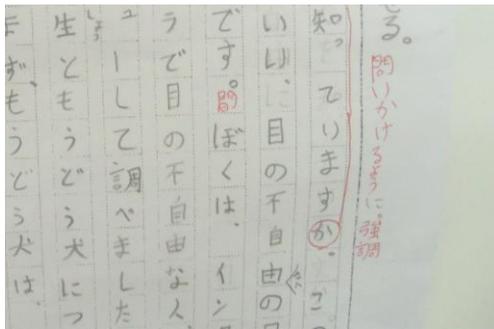


写真3 児童の発表原稿

2-4 自己評価

次時では、自分の発表原稿をもとに発表練習を行った。iPadを用いて、お互いに撮影し合った。撮影後、お互いの動画を見あいながらアドバイスをし合った。資料を見せるときの視線や大切なところを強調できているかなど、前時の4つのポイントを確認しながら練習を進めていった。



写真3 練習の様子

2-5 単元後の児童

本単元を終えて、児童は自分の発表の仕方を他者から評価してもらえただけでなく、自己評価をすることができた。これにより、国語科の授業以外での発表の仕方に聞き手を意識し、分かりやすく発表しようという意識の変化が感じられるようになった。

さらに、授業中だけではなく、普段の生活などでも意識する児童が増えた。また、他の学年の発表の様子を見て、よかったところや直したらよいところなど考えながら聞く児童も増えた。

3 成果と課題

3-1 成果

iPadを活用した単元構成にしたことでの成果は以下の4点である。

- ・児童が意欲的・主体的に友達と学び合いながら活動することができたこと。
- ・動画再生が容易であることで、児童の思考の流れ止めることなく、次の活動につなげることができたこと。
- ・自分の発表を撮り溜めることができるため、自分の変容が見ることができ、更なる意欲の向上につながったこと。
- ・相手を意識しながら、発表しようとする意識が育ったこと。

3-2 課題

iPadを活用した単元構成にしたことでの成果は以下の2点である。

- ・児童の視聴覚機器の継続的な使用が必要であること。
- ・視聴覚機器の特性を理解し、授業を構成すること。

参考資料

評価規準の作成の参考資料
 国立教育政策研究所
 教育課程研究センター